令和8年産米初検査

営農部



「ヒノヒカリ」380俵 オール1等

■令和8年産米の初検査を10月7日、七城ライスセンターで行いました。夏の暑さの影響で、生育が心配されましたが、当日検査された米「ヒノヒカリ」は全て1等と格付けされました。JA営農関係者と理事らが見守る中、農産物検査員2人が「ヒノヒカリ」380俵を検査。整粒歩合、粒の大きさや水分などを確認しました。

■8月の酷暑や水不足が心配されましたが、9月に入り気温が落ち着き昼夜の寒暖差が生育にいい影響を与えました。生産者の栽培管理の徹底もあり、品質は良好です。検査の後、試食も行いました。香りが良く、甘味と粘りもあり、おいしい米に仕上がっています。初検査後、管内の各施設でも順次検査を行っています。

※米の初検査当日は、テレビ局（NHK/RKK/KKT）からの取材もあり、県内のニュースで令和8年産米の状況が放映されました。



インタビューに答える髙野担当理事



米イベント情報

・菊池米ブランド推進協議会が主催する「第14回 菊池米食味コンクール」が11月21日、菊池市泗水公民館で開かれます。出品されたお米は、11月29日に多良木町で開かれる「第10回九州のお米コンクール」にも自動的にエントリーされます。

・11月21・22日は、JA菊池本所敷地内で秋の感謝祭を開きます。米のすくいどりや女性限定俵かつぎ（達成者には新米をプレゼント）、農畜産物が当たる大抽選会も予定しています。

一日日本農業新聞大会

生活部

情報発信の重要性再確認

消費者へ農業の正しい情報を発信しよう



■一日日本農業新聞大会を9月29日、パシオンで開きJA役職員ら70人が参加しました。日本農業新聞を通して、組合員とJA職員間で正しい情報を共有すること、消費者へ農業の正しい情報を発信することの重要性を再確認しました。

■東哲哉組合長は「農業新聞の購読を通じて、めまぐるしく変化する農業情勢の理解を深めよう。組合員と一緒になって生産現場の現状を地方から発信していきたい」とあいさつ。日本農業新聞九州支所の島村一弘支所長が「最新の国内農業情勢と今後について」と題して講演し、米情勢や消費税の動向について説明しました。島村支所長は「農業新聞を活用し、他産地での取り組みに注目しながら、地域農業を盛り上げる材料にしてほしい。生産者と消費者の相互理解のための対話を実践してほしい」と述べました。

■日本農業新聞の普及は、生活部が各中央支所の生活課と共に担当しています。農業新聞の購読を進め、農業者と農業関係者が一つとなり、正しい農業情勢を消費者に発信していきましょう。



講演する島村支所長

